**工事監理報告書（構造関係）**

　 年　　 月　　 日

（あて先) 千葉市建築主事

【建築主】

住所

氏名

【工事監理者】

事務所名 （　　　　　）建築士事務所（　　　　　）知事登録第 　　　　　　　　　号

氏名

資格（　　　　　）建築士（　　　　　）登録第　　　　　　　　　　　　　　　　 　号

【工事施工者】

住所

氏名

建設業の許可 　　大臣・知事 　 第 　　　　　　　　　　 号

下記の建築物は、建築基準法並びにこれに基づく命令及び条例の規定に適合して施工され、構造耐力上安全であることを確認しましたので報告します。

|  |  |
| --- | --- |
| 工事名称 |  |
| 地名地番 | 千葉市 区 |
| 確認年月日・番号 | 平成 年 月 日 第 　　　　　　　　　　　 号 |
| 設計者 | 住所  事務所名　　（　　　　　）建築士事務所（　　　　　）知事登録第　　　　　　　　　　　　号  氏名  資格　　　　　（　　　　　）建築士（　　　　　）登録第　　　　　　　　　　　　　　　　 　号 |
| 構造概要 | S, RC, SRC, WRC, PC, その他( 　　 　　　 )  地上 　 階 、 地下 　 階、 ＰＨ 　 階、最高高さ 　 m、軒高　　　　　　m  延べ面積 　　　　　 ㎡、　用途 |
| 工事監理者  の総合所見 |  |

※ 報告者　が複数の場合は全て列記して下さい。

**杭・基礎工事１／１**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 支持地盤 | | 種類( 　　 　　　　　　　層) 、位置ＧＬ－ 　　 m | | |
| 基礎工法 | | □直接基礎 (独立，連続，複合，ベタ) 、長期許容支持力 kN/㎡  □地盤改良（浅層、深層）、　試験方法　（平板載荷、モールドコアによる一軸圧縮、その他　　　　　　　　　　　　　） | | |
| □杭基礎 杭種(　　　　　 　　　　)、　工法( 　　　　　　　　 )、 杭径 　 　　 Φ、 杭先端深さ GL- 　　 m、 長期許容支持力 　　 　 　kN/本、 | | |
| 工事監理項目(検査・確認した事項にチェック) | | | 施工者 | 監理者 |
| 直接基礎 | 床付け面の状況写真 | | □ | □ |
| 支持層深さの設計値との差異 | | □ | □ |
| 平板載荷試験（設計値の3倍（極限）又は2倍（降伏）） | | □ | □ |
|  | |  |  |
| 杭基礎 | 全般 | 掘削土標本とボーリングサンプルとの比較 | □ | □ |
| 杭支持層深さの確認方法（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | □ | □ |
| 杭支持層深さの設計値との差異（違いがあった場合の処置方法　　　　　　　　　　　　　　　　　） | □ | □ |
| 偏心量はあらかじめ検討の範囲内か（設計図書及び計測結果の確認） | □ | □ |
| 杭頭接合部の施工状況確認 | □ | □ |
| 場所打杭 | 超音波孔壁測定の本数とその結果 | □ | □ |
| 杭頭余盛コンクリートの状況写真 | □ | □ |
| 配筋検査の記録（写真可） | □ | □ |
| 鉄筋のミルシート | □ | □ |
| コンクリート強度試験結果 | □ | □ |
|  |  |  |
| 既成杭 | 認定（評定）杭の場合、認定（評定）通りの施工となっているか | □ | □ |
| 材料の品質確認（ミルシート・強度試験結果・製品検査成績書） | □ | □ |
| 杭頭処理の確認（写真） | □ | □ |
| 不具合の処置及び検査結果の考察各種書類の確認 | |  | | |

**鉄筋コンクリート工事１／２**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 種 類 | □ＳＤ295、□ＳＤ345、□ＳＤ390、□ＳＤ490 、□　　　　　　　、□　　　　　　　、  □高強度せん断補強筋　　　　　　　　　　　大臣認定品 | | | | | | | | |
| 継手工法 | □重ね継手、□ガス圧接継手、 □その他の継手(工法 　　　　　　　 ) | | | | | | | | |
| 圧接部分の  試験機関 | 名称・住所  氏名・資格 | | | | | | | | |
| コンクリート | 工場名 　　　　 JIS表示許可番号  所在地 　　　　 工事現場までの距離･時間 | | | | | | | | |
| 使用材料 | セメント品名  種別 製造工場 | | | | 細骨材・産地 種別  塩分量 % | | | | |
| 混和材料 | | | | 粗骨材・産地 種別  最大寸法 | | | | |
| 打込結果 | 打込箇所 |  |  |  | |  |  |  |  |
| 打込年月日 |  |  |  | |  |  |  |  |
| コンクリート  の種類 |  |  |  | |  |  |  |  |
| 設計基準強度  (N/mm2) |  |  |  | |  |  |  |  |
| 強度補正値  S値またはT値 |  |  |  | |  |  |  |  |
| スランプ  (㎝) |  |  |  | |  |  |  |  |
| 空気量  (％) |  |  |  | |  |  |  |  |
| 養生方法 |  |  |  | |  |  |  |  |
| 圧縮強度  及び材齢 | N  　　　　　日 |  |  | |  |  |  |  |
| 適用するＪＡＳＳ５  の年度 |  |  |  | |  |  |  |  |
| 塩化物量  (㎏/ｍ3) |  |  |  | |  |  |  |  |

**鉄筋コンクリート工事２／２**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 工事監理項目(検査・確認した事項にチェック) | | | | 施工者 | 監理者 |
| 鉄筋の種類、規格を確認した。 | | | | □ | □ |
| 柱、梁の主筋径、本数、配置を確認した。 | | | | □ | □ |
| 柱、梁のフープ、スターラップの径、形状、及び間隔を確認した。 | | | | □ | □ |
| 梁貫通孔補強の仕様、配筋を確認した。　　認定工法の場合工法名（　　　　　　　　　　　　　　　　　） | | | | □ | □ |
| 主筋の定着長さ、継手長さを確認した。 | | | | □ | □ |
| 継ぎ手の位置、工法、耐力を確認した。　　認定工法の場合工法名（　　　　　　　　　　　　　　　　　） | | | | □ | □ |
| 圧接部の外観検査をおこなった。 | | | | □ | □ |
| 圧接部の試験方法(　超音波探傷･　引張試験　) 　　　　　　　　　　　試験場名（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | | | | □ | □ |
| 床、壁の配筋を確認した。 | | | | □ | □ |
| 床、壁の貫通箇所の補強を確認した。 | | | | □ | □ |
| コンクリート型枠の形状、寸法を確認した。 | | | | □ | □ |
| 鉄筋のかぶり厚さを確認した。（配筋検査により確保したかぶり厚さの最小実測値を下表に記入。） | | | |  |  |
| 部位 | 土に接しない部分 | | 土に接する部分 |
| 基礎 | 屋外　　　　　　　　　　　㎝ | 屋内　　　　　　　　　　　㎝ | ㎝ |
| 柱 | 屋外　　　　　　　　　　　㎝ | 屋内　　　　　　　　　　　㎝ | ㎝ |
| 梁 | 下端　　　　　　　　　　　㎝ | 上端　　　　　　　　　　　㎝ | ㎝ |
| 耐力壁 | 屋外　　　　　　　　　　　㎝ | 屋内　　　　　　　　　　　㎝ | ㎝ |
| 屋根版、床版 | 屋外　　　　　　　　　　　㎝ | 屋内　　　　　　　　　　　㎝ | ㎝ |
| 非耐力壁 | 屋外　　　　　　　　　　　㎝ | 屋内　　　　　　　　　　　㎝ | ㎝ |
| コンクリートのスランプ、空気量を検査した。 | | | | □ | □ |
| コンクリートの調合が所要のワーカビリティーを得られたことを確認した。 | | | | □ | □ |
| コンクリートの塩化物量を測定した。測定方法（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | | | | □ | □ |
| コンクリートの強度が所要強度以上であることを確認した。試験場名（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | | | | □ | □ |
| 型枠のせき板、支柱の取りはずしを適正に行ったことを確認した。 | | | | □ | □ |
| 打設後の養生を確認した。 | | | | □ | □ |
| 不具合の処置及び検査結果の考察各種書類の確認 |  | | | | |

**鉄骨工事　１／３**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 使用材料 | 400N/mm2級　　（SN400、STKR400、BCP235、　　　　　 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  490N/mm2級　　（SN490、BCR295、BCP325、　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  大臣認定品 (　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　) | | | |
| 鉄骨加工工場 | 住所  名称  大臣認定（　　　　　　　　年　　　月　　　日　第　　　　　　　　　号）　グレード（Ｓ ・Ｈ　・Ｍ　・Ｒ　・Ｊ） | | | |
| 溶接部の検査 | 社内検査会社名  検査員　　　　　　　　　　　　　 資格 | | | |
| 第三者検査会社名  検査員　　　　　　　　　　　　　 資格 | | | |
| □社内検査の検査率は  VT100％、UT100％実施した。 | | | □第三者検査の検査率は  VT（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  UT（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）実施した。 |
| 溶接部受入  検査結果 | 不合格箇所有りの場合、不合格箇所の部位、項目、対処方法を記載。 | | | |
| 現場溶接 | 有　・無 | 工事現場溶接  の部位 |  | |
| 現場溶接施工者 | 所属 　　　　 氏名 　　　 資格  所属 　　　　 氏名 　　　 資格 | | | |
| 現場溶接検査員 | 所属 　　　 　氏名 　　　 資格  所属 　　　　 氏名 　　　 資格 | | | |
| 溶接部検査率 | □VT　100％、UT 100％実施した。 | | | |
| 溶接部検査結果 | 不合格箇所有りの場合、不合格箇所の部位、項目、対処方法を記載。 | | | |

**鉄骨工事　２／３**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 工事監理項目(検査・確認した事項にチェック) | | 施工者 | 監理者 |
| 工作図確認  現寸検査 | 施工図の確認を行った。 | □ | □ |
| 剛接合部について応力伝達上支障ないことを確認した。 | □ | □ |
| 材料検査  溶接仕口部  仮付組立検査 | 溶接棒、溶接姿勢、電流、溶接技能者資格を確認した。 | □ | □ |
| 使用鋼材の材料検査を行った（試験：ミルシ－ト） | □ | □ |
| 突合わせ溶接の開先角度を検査した。 | □ | □ |
| 同上のル－ト面状態、ル－ト間隔を検査した。 | □ | □ |
| スカ－ラップ　ｒ＝　　ｍｍを確認した。 | □ | □ |
| エンドタブの取り付けを確認した。 | □ | □ |
| 裏あて金の取り付け状態又は裏はつりを確認した。 | □ | □ |
| 突合わせ継手の食い違い、仕口部の板ずれを検査した。 | □ | □ |
| すみ肉溶接のはだすきを検査した。 | □ | □ |
| 仕口内部の内ダイアフラムの取り付けと開先の検査をした。 | □ | □ |
| ボルト等の縁端距離、相互間の中心距離の確認をした。 | □ | □ |
| ボルト孔の径とボルト径の確認をした。 | □ | □ |
| 溶接検査  製品検査 | 入熱温度・パス間温度の管理状況を確認した。 | □ | □ |
| 柱、梁等の部材寸法等を確認した。 | □ | □ |
| すみ肉溶接の脚長寸法を検査した。 | □ | □ |
| 裏ハツリの施工を確認した。 | □ | □ |
| スラグ、スパッタの除去（清掃）を確認した。 | □ | □ |
| 鉛直ブレ－スの溶接長、ボルトのはしあき、へりあきを確認した。 | □ | □ |
| 水平ブレ－スの溶接長、ボルトのはしあき、へりあきを確認した。 | □ | □ |
| ボルト締付  建て方検査 | 高力ボルトの製品名　　　　　　　　（ＪＩＳ・トルシア） | □ | □ |
| 高力ボルトの材料強度を確認した。（ミルシ－ト） | □ | □ |
| ボルトの本数、径、添板の板厚等を確認した。 | □ | □ |
| 高力ボルトの摩擦面処理を確認した。(方法　　　　　) | □ | □ |
| 高力ボルトのトルク係数値試験を行った。(JIS形トルクコントロ－ル法) | □ | □ |
| 高力ボルトの導入軸力の確認試験を行った。(トルシア形) | □ | □ |
| 1次締め後マ－キングを行った。（全ての高力ボルト） | □ | □ |
| 2次締め後ナット回転量及び共回り、軸周りの無い事、ボルトの余長を確認した。 | □ | □ |
| トルシア形の場合、ピンテ－ルの破断を確認した。 | □ | □ |
| 建入れ精度の確認をした。 | □ | □ |
| ブレ－スの遊びがないか確認した。 | □ | □ |

**鉄骨工事　３／３**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 柱脚 | 共通 | 柱脚接合工法と仕様の確認をした。 | □ | □ |
| 露出 | アンカ－ボルト径、長さ、材質、降伏比、取付位置の確認をした。 | □ | □ |
| グラウトモルタルの充填を確認した。 | □ | □ |
| 座金の使用、及びナットの戻り止め措置を確認した。 | □ | □ |
| アンカ－ボルトの締付を確認した。 | □ | □ |
| 根巻き | 根巻き部分の高さの確認をした。 | □ | □ |
| 根巻き部分の配筋の確認をした。 | □ | □ |
| 頭付きスタッドの径、本数、配置、溶接状況を確認した。 | □ | □ |
| 鉄骨のかぶり厚さを確認した。 | □ | □ |
| 埋込み | 柱の埋め込み長さを確認した。 | □ | □ |
| 側柱、隅柱のU字型補強筋等による補強を確認した。 | □ | □ |
| 頭付きスタッドの径、本数、配置、溶接状況を確認した。 | □ | □ |
| 鉄骨のかぶり厚さを確認した。 | □ | □ |
| デッキプレート | | 頭付きスタッドの打撃曲げ試験を行った。 | □ | □ |
| 接合の種類の確認を行った。（方法　　　　　　　　　　　　） | □ | □ |
| 接合のピッチ、外観検査を行った。 | □ | □ |
| その他の検査 | |  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
| 不具合の処置及び検査結果の考察各種書類の確認 | |  | | |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 木  材 | 軸組工法 | 土台 | 檜・　ひば・　（　　　　　　　　　　　　　） |
| 柱 | 檜・松・杉・栂・集成材（　　　　　　　　　） |
| 横架材 | 檜・松・杉・栂・集成材（　　　　　　　　　） |
| 耐力壁 | 檜・松・杉・栂・構造用合板（　　　　　　　） |
| 床 | 構造用合板（　　　　　　） |
| 母屋 | 檜・松・杉・栂・集成材（　　　　　　　　　） |
| その他 | 檜・松・杉・栂・集成材（　　　　　　　　　） |
| 木造大断面 | 柱  (間柱除く)  横架材  (小梁除く) | 構造用集成材　　　　　（　　　　　　　　　）  　構造用大断面集成材　　（　１級　・　２級　）  　化粧ばり構造用修正材　（　１級　・　２級　） |
| その他 |  |
| 枠組壁工法 | 土台 | 甲種枠組材（特級・１級・２級） |
| 床根太 | 甲種枠組材（特級・１級・２級） |
| 端根太 | 甲種枠組材（特級・１級・２級） |
| 側根太 | 甲種枠組材（特級・１級・２級） |
| 床・梁 | 構造用集成材（１級・２級） |
| まぐさ | 甲種枠組材（特級・１級・２級） |
| 天井 | 構造用集成材（１級・２級）・ |
| 垂木・棟木 |  |
| 屋根梁 |  |
| たて枠 | 甲種枠組材（特級・１級・２級・３級）  甲種枠組材（ｺﾝｽﾄﾗｸｼｮﾝ・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ）  構造用集成材（　　　　　　　　 ） |
| 上枠 |
| 頭つなぎ |
| 下枠 |
| その他 |  |
| 接合金物の種類と  規格 | | ホールダウン金物 | （　　　　　）kN用　・　（　　）マーク |
| プレート金物 |  |
| アンカーボルト |  |
| 羽子板金物 |  |
| 火打ち金物 |  |
| その他 |  |
| 使用釘 | | N50 ・　CN50　・　（　　　　　） | |

**木工事　１／２**

**木工事　２／２**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 工事監理項目（検査・確認した事項にチェック） | | | | |
| 確認項目 | 該当法令 | 内容 | 施工者 | 監理者 |
| 全体  共通事項 | 令3章8節 | 柱、横架材、筋かい、土台等の位置の確認 | □ | □ |
| 木材の樹種、等級、形状、寸法の確認 | □ | □ |
| 金物の種類、規格、品質、形状、寸法及び緊結方法、緊結の確認 | □ | □ |
| 釘の種類の確認 | □ | □ |
| 令47,12告1460 | 継手及び仕口の接合方法の確認 | □ | □ |
| 土台 | 令42条 | アンカーボルトの材質、形状、寸法及び配置、定着、緊結状況の確認 | □ | □ |
| 在来  工法 | 令3章8節 | 構造耐力上必要な部分に使用する軸組材（柱、はり、筋交い、その他の耐力壁  等）、床材及び屋根地材の種類、品質、形状、寸法及び位置の確認 | □ | □ |
| 令3章8節 | 柱（通し柱、管柱）、間柱、梁、桁、土台その他の横架材、筋かい及びその他の耐力壁（構造用合板）の形状、寸法、配置の確認 | □ | □ |
| 令3章8節 | 柱（通し柱、管柱）と梁との緊結方法（Ｚ金物及びＣ金物等の工法による）の確認 | □ | □ |
| 令3章8節 | 筋かいの緊結及び緊結方法（Ｚ金物及びＣ金物等の工法による）の確認 | □ | □ |
| 令3章8節 | 柱（通し柱、管柱）と土台、その他の横架材との緊結及び緊結方法（Ｚ金物及  びＣ金物等の工法による）の確認 | □ | □ |
| 令3章8節 | 構造用合板の緊結の確認（釘間隔　 　cm以下） | □ | □ |
| 令3章8節 | ホールダウン金物の品質、形状、寸法、位置、緊結及び緊結方法の確認 | □ | □ |
| 令3章8節 | 床根太、床梁、胴差との取り合い及び床下地の取り付けの確認 | □ | □ |
| 令3章8節 | 小屋組の形状、寸法、緊結及び緊結方法の確認 | □ | □ |
| 令22条 | 床高さ（又は床下防湿）の確認 | □ | □ |
| 令43条 | 柱の欠込み部及び通し柱に代わる管柱の補強の確認 | □ | □ |
| 令44条 | 横架材に構造耐力上支障のある欠込みの無いことの確認 | □ | □ |
| 令45条 | 筋かい等の欠込み部の補強の確認 | □ | □ |
| 令47条 | 釘打ちの方法の確認 | □ | □ |
| 令46条 | 火打ち材の設置状況、剛床の確認 | □ | □ |
| 令46条 | 小屋組の火打ち材、振れ止めの設置状況等の確認 | □ | □ |
| 枠組壁  工法 | H13年告示  第1540号  第1541号 | 構造耐力上必要な部分に使用する枠組材の品質、寸法及び配置の確認 | □ | □ |
| 構造耐力上必要な部分に使用する床材、壁材及び屋根下地材の品質及び寸法  の確認 | □ | □ |
| 構造耐力上必要な部分に使用する釘及びネジの品質及び寸法の確認 | □ | □ |
| 土台、床根太、端根太及び側根太の品質、寸法及び配置の確認 | □ | □ |
| 床の各部材相互及び床の枠組と土台又は頭つなぎとの緊結の確認 | □ | □ |
| 壁の各部材相互及び壁と床、頭つなぎ又はまぐさ受けとの緊結の確認 | □ | □ |
| 小屋組各部材相互及び小屋組の部材と頭つなぎ又は屋根下地との緊結の確認 | □ | □ |
| 防腐措置 | 令49 | 防腐及び防蟻措置の確認（地盤から　 　mm） | □ | □ |
| 不具合の処理  及び検査結果の考察 | |  |  |  |